令和2年9月 要約版

平成30年・令和元年度　調査研究事業

調査研究シリーズ
No.80

# 国語科における「主体的・対話的で深い学び」の授業づくり

## 研究の視点

- ✔ 新学習指導要領全面実施に向けた理論と実践
- ✔ 国語科におけるカリキュラム・マネジメント
- ✔ 資質・能力を育成するための学習指導案と「学びのプラン」

公益財団法人
日本教材文化研究財団

# 資質・能力を育成する単元づくりのための学習指導案の例

▶報告書44ページ参照

単元名としてこの単元で育成する資質・能力を簡潔に示します。

## 国語科 第１学年 学習指導案

### １　単元名

文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考える資質・能力を育成する。

### ２　単元で育成する資質・能力

新学習指導要領の「内容」における指導「事項」を示します。

| 知識及び技能 | 思考力・判断力・表現力等 | 学びに向かう力、人間性等 |
|---|---|---|
| 事象や行為、心情を表す語句の量を増やすとともに、語句の辞書的な意味と文脈上の意味との関係に注意して話や文章の中で使うことを通して、語感を磨き語彙を豊かにすること。（(1)―ウ） | 文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えていること。（Ｃ－(1)―エ） | |

本単元で取り上げる言語活動

この単元で資質・能力を育成するための言語活動を示します。

小説や随筆などを読み、考えたことなどを記録したり伝え合ったりする活動（Ｃ―(2)―イ））

「ヘルマン・ヘッセ 高橋健二訳『少年の日の思い出』を読んで、話の続きを考えよう」

### ３　単元の評価規準

この単元で育成する資質・能力の具体を、単元の学習活動に即して観点別の評価規準として示します。

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ①　小説の中に使われたり、話の続きを書く際に使う語句について、その語句が文章の中で果たしている役割を考えたり、使いこなせる語句を増やしたりするとともに、その言葉が適切に使われているかどうかを感じとっている。 | ②　「読むこと」において、作品の場面を捉えてその構成を理解したり、登場人物の心情の変化に沿って文章の流れを捉えその展開を把握したりするとともに、自分の考えを支える根拠となる部分を挙げて考えている。 | ③　小説を読んで話の続きを記述しそれを朗読することを通して、粘り強く、学習課題に沿って、語句の使い方に習熟したり、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えたりしようとしている。 |

### ４　単元の指導と評価の展開

この単元全体を見通し、指導と評価の一体化を図ります。

| 次 | 時 | 具体の評価規準と評価方法 | 学習活動 |
|---|---|---|---|
| 第一次 | 1<br>2 | 【評価規準】（知識・技能）<br>①　小説の中に使われたり、話の続きを書く際に使う語句について、その語句が文章の中で果たしている役割を考えたり、使いこなせる語句を増やたりするとともに、その言葉が適切に使われているかどうかを感じとっている。<br>【行動の観察】 | 1　「少年の日の思い出」の朗読を聞き、登場人物や場面の状況を確認する。<br>2　「少年の日の思い出」を音読し、語句や語彙について確認する。 |
| 第二次 | 3<br>4 | ②　「読むこと」において、作品の場面を捉えてその構成を理解したり、登場人物の心情の変化に沿って文章の流れを捉えその展開を把握したりするとともに、自分の考えを支える根拠となる部分を挙げて考えている。<br>【記述の確認】 | 3　「少年の日の思い出」の話の続きを考えて記述する。<br>4　２～３人のグループで自分の書いた話の続きの朗読を発表し、交流する。<br>5　朗読の交流を踏まえて、自分の書いた話の続きを推敲し、完成させる。<br>6　交流を通して得た他者の助言や意見を生かして書いた話の続きを推敲し、清書する。 |
| 第三次 | 5 | 【評価規準】（主体的に学習に取り組む態度）<br>③　小説を読んで話の続きを記述しそれを朗読することを通して、粘り強く、学習課題に沿って、語句の使い方に習熟したり、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えたりしようとしている。<br>【記述の分析】 | 7　単元の学習を振り返り、話の続きを記述する際の根拠や、記述や交流を通して自分の考えが広がったり深まったりしたことについて記述する。 |

評価規準について評価の対象を明らかにして、評価の方法を示します。

# 生徒が学習と評価に見通しを持ち、振り返るための「学びのプラン」の例

▶報告書45ページ参照

単元名はこの単元で育成する資質・能力を簡潔に示します。

## 学びのプラン

1　単元名　文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考える資質・能力を育成する。

2　身に付けたい資質・能力

単元の観点別の評価規準を生徒が理解できる表現で示します。

| 知識・技能 | 思考・判断・表現 | 主体的に学習に取り組む態度 |
|---|---|---|
| ①　「少年の日の思い出」の中に使われたり、話の続きを書くときに使った語句について、その語句が文章の中で果たしている役割を考えたり、使いこなせる語句を増やしたりするとともに、その言葉が適切に使われているかどうかを感じとっている。 | ②「読むこと」の学習で、作品の場面を捉えてその構成を理解したり、登場人物の心情の変化に沿って文章の流れを捉え、その展開を把握したりするとともに、自分の考えを支える根拠となる部分を挙げて考え、話の続きを書いている。 | ③　「少年の日の思い出」を読んで、話の続きを書いてそれを朗読することを通して、粘り強く、学習課題に沿って、適切に語句を使ったり、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えたりしようとしている。 |

3　この単元で学習すること

「ヘルマン・ヘッセ 高橋健二訳『少年の日の思い出』を読んで、話の続きを考えて書こう」

| 月日 | 次 | 時 | 単元を通して身に付けたい資質・能力と評価の方法 | 学習の内容 |
|---|---|---|---|---|
| | 第一次 | 1<br>2 | 【身に付けたい資質・能力】<br>（知識・技能）<br>①「少年の日の思い出」の中に使われたり、話の続きを書くときに使った語句について、その語句が文章の中で果たしている役割を考えたり、使いこなせる語句を増やしたりするとともに、その言葉が適切に使われているかどうかを感じとっている。<br>→　このことについて、朗読を聞いてノートにメモした内容や、音読した時に語句や語彙についてその意味を調べたり、調べたことを音読に生かしたりする様子によって評価します。 | 1　「少年の日の思い出」の朗読を聞き、登場人物や場面の状況を確認する。<br>2　「少年の日の思い出」を音読し、語句や語彙について確認する。 |
| | | | ここでの学習の振り返り（「身に付けたい資質・能力」の①について） | |
| | 第二次 | 3<br>4 | 【身に付けたい資質・能力】<br>（思考・判断・表現）<br>②　「読むこと」の学習で、作品の場面を捉えてその構成を理解したり、登場人物の心情の変化に沿って文章の流れを捉え、その展開を把握したりするとともに、自分の考えを支える根拠となる部分を挙げて考え、話の続きを書いている。<br>→　このことについて、話の続きの下書きと朗読の交流を通して気付いたことのメモ、それらを踏まえて清書した話の続きの文章によって評価します。 | 3　「少年の日の思い出」の話の続きを考えて記述する。<br>4　2～3人のグループで自分の書いた話の続きの朗読を発表し、交流する。<br>5　朗読の交流を踏まえて、自分の書いた話の続きを推敲し、完成させる。<br>6　交流を通して得た他者の助言や意見を生かして書いた文章を推敲し、清書する。 |
| | | | ここでの学習の振り返り（「身に付けたい資質・能力」の②について） | |
| | 第三次 | 5 | 【身に付けたい資質・能力】<br>（主体的に学習に取り組む態度）<br>③　「少年の日の思い出」を読んで、話の続きを書いてそれを朗読することを通して、粘り強く、学習課題に沿って、適切に語句を使ったり、文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えたりしようとしている。<br>→　このことについて、学習を振り返って書いたものによって評価します。 | 7　単元の学習を振り返り、話の続きを記述する際の根拠や、記述や交流を通して自分の考えが広がったり深まったりしたことについて記述する。 |
| | | | ここでの学習の振り返り（「身に付けたい資質・能力」の③について） | |

評価の資料や方法について生徒が理解し見通しをもつことができるように説明します。

この「学びのプラン」が「学びのあしあと」になるよう、日付を記入する欄を設けています。

生徒が単元の学びを振り返るとともに、自己の学習を調整した経過を記録するため、評価規準ごとに「ここでの学習の振り返り」を記述します。

【研究主題】

# 国語科における「主体的・対話的で深い学び」の授業づくり

## 理論編

- これからの学習の在り方について
- 移行期における中学校国語科の実践について
- 新学習指導要領におけるカリキュラム・マネジメント
- これからの国語科の授業づくりを考える

理論編には、これからの国語科教育についての論考やメンバーによる座談会を収録しました。

## 実践編

- カリキュラム・マネジメントに位置付けた実践
- 「おくのほそ道」を通して資質・能力を育成する
- 「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す授業改善の試み
  - ・実践と解説
  - ・学習指導案・「学びのプラン」の例

実践編には、「資質・能力」を育成するための授業実践から、学習指導案や「学びのプラン」を多数収録しました。

## 研究会メンバー

髙木　展郎（横浜国立大学 名誉教授）
三浦　修一（東京医療学院大学 客員教授）
三藤　敏樹（横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校附属中学校 副校長）
小清水 宣雄（三浦市立初声中学校 教頭）
松田　哲治（横浜市立南高等学校 副校長）
南崎　徳彦（横浜隼人中学・高等学校 教頭）
中村　慎輔（愛川町立愛川中原中学校 教頭）
山内　裕介（横浜市教育委員会事務局 教職員育成課 主任指導主事）
荒井　純一（茅ヶ崎市立赤羽根中学校 教諭）
土持　知也（横浜国立大学教育学部附属横浜中学校 教諭）
三冨　洋介（三浦市立三崎中学校 教諭）
栗原　優花（横浜市立港南台第一中学校 教諭）
田口　尚希（横浜市立横浜サイエンスフロンティア高等学校附属中学校 教諭）

（令和2年3月現在）

**公益財団法人 日本教材文化研究財団**
〒162-0841東京都新宿区払方町14-1　電話：03-5225-0255　FAX03-5225-0256　http://www.jfecr.or.jp

←「調査研究シリーズ」は、当財団のwebサイトに掲載しています。

当リーフレットの内容、テキスト、画像等の無断転載・無断使用を固く禁じます。Unauthorized copying prohibited.